

株式会社池田泉州ホールディングス 2025年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

2025年6月3日（火）に開催した決算説明会における質疑応答要旨です。

Q:第5次中期経営計画 Plus の見直しについて、金利が上昇したこともあり、当初目標に対して上方修正になったと思う。金利以外の要素において、想定よりも上手くいっていることがあれば教えてほしい。また、次期中期経営計画で当期純利益目標 220 億円と明確化されている。政策金利が 0.75% に上昇するという前提条件はあるが、これだけだと 220 億円には届かない。次期中期経営計画でも、金利以外の要素において、どのような取り組みが重要になると考えているか？

A:従来から、決定していない政策金利は織り込まない形で収益計画を策定してきた。2025年度の収益計画も現状の政策金利である 0.5%が継続するという前提を置いており、政策金利が上昇すれば、その分収益にはプラスに働く。

これまで堅実にリスクコントロールをしてきた。今後はリスクバランスを考えながらではあるが、一步踏み込んでリスクテイクしていく。事業性融資は中小企業向けだけでなく、大・中堅企業向けを含めて対応できる体制を整えてきた。ここから先、その成果が上がってくることに期待している。住宅ローンについては、流動性預金を取り込んでいくという意味においても積極的に取り組んでいく。

また、長期金利が上がってくる中で、有価証券は運用利回りの上昇と評価損の拡大が同時並行で進むが、他地銀と比較すると有価証券利息が見劣りしており、徐々に有価証券残高を積み上げている。

このような形で、全体的な資産ポートの中で、収益を押し上げていこうと考えている。

Q:事業部門別の RORA について、住宅ローンは低下する見通しになっている。金利が上昇する中で、RORA が低下する理由を教えてほしい。

A:意図して RORA を下げようとしているわけではない。根底にあるのは競争が厳しいマーケットの中で、リスクアセットを積み上げていくほどに、金利を確保するのが難しいということである。最近のマーケットの特徴として、物件価格が上昇しているので、費用を含めた住宅ローンの実行額が増えている。これもリスクアセットの押し上げ要因になっている。

Q:個人預金が減少している。住宅ローンで流動性預金を獲得するという説明もあったが、今後の預金戦略を教えてほしい。

A:昨年9月末時点では、総預金が前年対比で減少に転じた。それまでは預金金利をあまり付けず、自然体で対応していた。そこを見直して、昨年下半年から他行を意識した戦略を始めている。個人の定期性預金は金利を付けても、ネット銀行と比較すると厳しい面がある。ネット銀行を越える金利を付けるのではなく、一定程度金利を付けつつ、窓口営業をはじめ、住宅ローンという仕組みも活用しながら、リアル銀行でできることをやっている。また、個人の定期性預金は預り資産として、投信や保険と並行した選択肢の一つと捉えて、個人営業を取り組んでいく。どうしても、貸出の原資としての調達というレベル感で預金を集めているが、個人総預かり資産として、預金の魅力をどう伝えていくかということに注力していきたい。

法人預金については、余資を持っている取引先も存在するが、従来、法人営業担当も細かくは見ていなかった。ここ半年はきめ細かな対応を行っており、預金含めた取引を獲得できている。

以 上